

請願第 24 号

請 願 書



傍聽希望

紹 介 議 員

鏑木 茂哉



2011年 10月 3日

川崎市議会議長

.....大島 明.....様

.....川崎市重症救急対応病院の公募.....

.....に関する請願.....

請 願 者

住 所 (〒 212 - 0021).....

.....川崎市幸区都町 39-1.....

氏 名 社会医療法人財団 石心会 理事長 川崎幸病院院長 石井暎禧 (印)

ほ か 82,735 名

電 話 044 (544) 4611.....

請 願 の 要 旨

川崎幸病院は救急車の断りゼロを目指しています。川崎市は、川崎市重症救急対応病院の公募に関して、川崎幸病院を唯一の対応病院として指定し、重症救急対応ベッド 62 床全てを委託されたい。

請 願 の 理 由

1. 高齢化の進展で救急車の出動台数が急激に増えている。
2. 近年特に、高齢者の成人病の重症救急が増えている。
3. 救急患者の搬送は、一刻一秒を争う為に、従来の二次医療圏では広域過ぎて手遅れになる。したがって救急の診療圏は各区単位で考えるべきである。
4. 川崎市南部医療圏の場合、川崎区、中原区の病床は全国平均を超え過剰である。幸区の病床は異常に少ない。今後の人口変化の予想を考慮に入れても変わらない。このため、川崎幸病院では、病床数に比して異常に多くの救急患者の受け入れをして来た。病床稼働率に於いては市内の病院中トップである。
5. 今回の病床配分に於いて、川崎区、中原区の病床を幸区に移すことは理にかなっている。他の区の病院に配分することは無意味であり、国の政策に真っ向から反することとなる。
6. 以上の考えが、川崎幸病院の独善でない事は、この請願書に添付した 82,735 人の署名が物語っている。